

# 駿台甲府いじめ防止基本方針

## 第1条 目的

この方針は、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）及びこれを受けたいじめ防止対策推進法施行条例の趣旨を踏まえ、全ての児童・生徒及び教職員が、学校の内外を問わず、いじめのない環境づくりに取り組むことを目的とした基本的な方針である。

## 第2条 建学の精神に基づいた取り組み

本学は「愛情教育」の理想の下に設立された学校法人であり、児童・生徒それぞれの歩調で何事にも果敢にチャレンジしていくという「チャレンジング・スピリット」を育くむという建学の精神に基づき、いじめを含む全ての児童・生徒が直面する問題と向き合い、いじめを放置せず、隠蔽せず、いじめの予防・解消に向けて真摯に取り組むことをここに宣言する。

## 第3条 対応の指針

- 1 本方針は、児童・生徒の直面する問題がいじめに該当するか否かを問わず、本方針に基づく対応が適切と思われる事案全般の対応の指針とする。
- 2 本方針に基づく対応に当たっては、いじめが重大な人権侵害でありながら、社会共同生活の様々な場面で起こり得るという社会の実情を踏まえ、前条の理念に基づき、児童・生徒が将来、いじめという方法を用いることなく社会共同生活を行い、またいじめ被害に遭った場合には、適切に支援を求めることができるような力をつけるための教育を第一に考えることとする。

## 第4条 学校の責務

- 1 本学及びその教職員は、全ての児童・生徒が、いじめ等のない環境において安心して学習その他の活動に取り組むことができるようにするため、当該学校に在籍する児童・生徒等の保護者、地域住民、児童相談所その他と連携を図りつつ、学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組むとともに、当該学校に在籍する児童・生徒がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速にこれに必要な指導及び支援をす

る責任を有する。

- 2 前項の規定は、いじめ以外の理由により困難に直面している児童・生徒への対応についての学校及び教職員の責務を免除するものではなく、学校及び教職員は、児童・生徒の直面する困難の名称いかんにとらわれることなく必要な指導及び支援をする責務を有する。

#### 第5条 いじめ等の当事者に対する対応

- 1 いじめ等の当事者に対しては、それぞれの平穏な学習環境、学校生活の構築を考え、出席の取扱いについて、柔軟に対応し、当該問題への対応が、関係児童・生徒の将来に無用の影を落とさないように配慮する。
- 2 いじめ等の当事者の保護者に対しては、適宜情報交換を行い、前項の目的を達成するために必要な協力・支援をする。

#### 第6条 いじめ防止等の対策組織

- 1 いじめ防止等の取り組みについては、生徒指導部が所轄する。
- 2 校長は、必要に応じて、生徒指導部の構成員及び校長が指名する者を加えたいじめ防止等の対策に関する拡大会議を設けることができる。

#### 第7条 いじめ防止等の対策組織の取り組み

- 1 前条に定める組織は、いじめ防止等に向けた以下の取り組みを実施するために必要な措置を行う。
  - 一 児童・生徒に対する定期の啓発活動
  - 二 児童・生徒に対する定期の調査
  - 三 教職員の資質向上のための研修
  - 四 その他いじめの予防・対応に関する必要な事項
- 2 校長は、前項の取り組みの内容及び結果について、年に1回以上、理事長に報告をしなければならない。

#### 第8条 いじめに対する対応

- 1 本学の児童・生徒に対するいじめの存在を疑う事情がある場合、教職員は、生徒指導部に対し、必要な報告を速やかに行う。
- 2 生徒指導部は、前項の報告等により本学の児童・生徒に対するいじめを疑うべき事情を把握した場合、その対応に必要な調査その他の対応を行う。

- 3 生徒指導部は、前項の調査結果を踏まえ、関係者に対し、必要な指導及び支援を行う。
- 4 生徒指導部は、必要に応じて、第2項の内容及び結果を理事長に速やかに報告する。

## 第9条 重大事態調査

- 1 校長は、いじめ防止対策推進法28条の趣旨を踏まえ、重大事態が発生した場合、理事長及び知事に対し、速やかに報告を行い、重大事態調査を実施する。
- 2 児童・生徒及び保護者からの重大事態の申し立てがあった場合、長期欠席・転学の理由がいじめであったと疑われる場合などを重大事態の発生とする。
- 3 重大事態調査の際に、重大事態と判断する根拠、調査目的、調査事項、調査方法、調査対象者について保護者へ事前説明を行い、共通理解を図る。
- 4 重大事態調査では、複数人での児童・生徒への聴き取り及び書き取りを通して、いじめの有無を含めた客観的な事実関係及びその背景について調査し、その内容を調査報告書にて報告する。また、関係児童・生徒の情報を教職員間で共有し、事後に必要なフォローをする。調査報告書には必要な児童・生徒指導上の改善点、教員組織上の改善点、施設安全上の改善点などを含めた再発防止策の提言を含める。
- 5 学校での調査では客観的な事態の把握が難しく、校長が必要であると判断した場合には警察への援助を要請し、その他の学外の関係機関及び法律・福祉・心理の専門家と連携して、第三者の視点も取り入れた対応を行う。

## 第10条 改訂

本方針は、その目的を達成するため常に見直しを行い、より適切ものに改訂していくこととする。

## 附則

本基本方針は、  
平成26年9月8日より、効力を有する。  
令和6年9月1日 一部改訂